



## 2年生課題研究 (SS探究発展AB) いよいよスタート！

今年度の2年普通科課題研究は272名の生徒が58の班に分かれてスタートしました。SS探究発展A(通称「SS」)の授業は毎週2時間連続で図書室にて行われており、4月から5月にかけて各班で研究テーマ候補の設定を行い、6月の「ゼミ別集会」を経て、現在は一つに絞ったテーマについての研究計画の作成に取り組んでいます。

出雲高校の課題研究では「デザイン思考」を取り入れており、研究テーマ設定についても「身近にある課題」に着目することを大切にしています。着目した「課題」に対して班員同士で疑問点を見つけ、協力して文献調査を進めることで研究テーマの候補を設定していきました。また、6月16日に実施した「ゼミ別集会」では、班の垣根を越え互いにアドバイスし合う姿が多く見られ、非常に活発な意見交換が行われました。班員同士では気付かなかった第三者の視点からのアドバイスが、研究を進める上での大きなヒントとなった班もあったようです。設定していた時間が足りなくなるほど積極的に活動する生徒の姿は、今後の課題研究に向けて大きな期待を抱かせるものでした。そして、7月になり多くの班でこれから一年間取り組んでいく課題研究のテーマが決まってきました。次の目標は9月に実施される「ゼミ別中間発表会」です。しっかりと研究計画を立て、検証活動を進めていって下さい。



2年普通科ゼミ別集会の様子

2年生理数科は、4月『化学・物理・生物・地学・数学』の中から興味のある分野を選択し、4～5名のグループで活動を開始しました。普通科の課題研究と同様、4月から5月にかけて各班の研究テーマの設定を行いました。テーマ設定に苦戦するグループも見られましたが、「ヨモギ・プラスチック・二酸化炭素・クマムシ・アンテナ・斐伊川・恋愛方程式」とバラエティー豊かなキーワードのテーマが設定されました。これから、本格的な検証活動をスタートさせていく予定です。どんな検証活動がこれから始まるのか、とても楽しみです。

今年度の1学期は例年に比べ授業時数が少なく不安も感じていましたが、課題研究に対して積極的に取り組んでいる班が多く、時数不足をあまり感じない進捗状況になっています。2学期になり中間発表会が終わると、いよいよ課題研究の検証活動が本格化してきます。決まった答えのない課題研究は、普段の教科学習では味わうことのできない、難しさや楽しさがあります。ですが、一生懸命取り組めば取り組むほど充実し、楽しくなっていきます。その醍醐味をしっかり味わいながら充実した活動にしてくれることを期待しています。

## 1年SS探究基礎

1年生SS探究基礎は、1学期に『情報整序演習』『課題発見プログラム』の二つの単元を設けています。『情報整序演習』では4～5人ずつのグループを作り、準備された研究テーマについて「Webbing法」と「KJ法」の二つの情報整理法を用いて演習を進めました。この二つの整理法を通じて、グループで協力することで自分とは違う意見を知ったり、意外な発見があったりと共同学習の喜びを味わう場面が多く見られました。また、二つの整理法を比較してそれぞれの違いや使い道を知ることもできました。

また『課題発見プログラム』では「地名・街道の謎を解け！」(地理)、「写真の謎を解け！」の二つのプログラムに取り組みました。自分たちで実際に「問い」を作ってみることや、写真に隠された「課題や問題」を想像することで課題を発見することを体験できたと思います。



## 1年Basic Science

「Basic Science」は「情報I」の代替として、1年生が課題研究に必要なスキルを情報の分野から学ぶ科目です。研究に必要なデータ処理や分析の方法など、情報Iで学ぶ内容を課題研究とリンクさせ、より実践的な学びとしてまとめた科目です。今年度は前半で島根大学数理・データサイエンス教育研究センターの協力の下、「データサイエンス」の手法を学び、地域のデータを扱いながら地域が抱える課題に気付いたり、データを分析することで課題解決に結びつけたりといった学習に取り組めます。地域や社会に対する課題観を育成すると共に、生のデータを扱いながら情報Iの内容を学習するといった「欲張りな」科目です。また情報Iの受験必修化を視野に入れて後半はプログラミング学習を取り入れたり問題演習を行ったりするなど、受験への対応も行います。

データサイエンスの手法とデータ分析の内容を体系的に理解したのち、その内容を2年で開始する課題研究に役立てていきます。

## 教育開発部長より

出雲高校はSSHに指定されてから11年目を迎えます。昨年度末に第Ⅲ期申請を行い、無事に採択されて今年度から第Ⅲ期のスタートとなりました。

本校のSSH事業の目玉は課題研究です。数多ある身近な問題に目を向け、グループで相談しながらそれを課題として捉え、解決するための方法を仮説として設定し、検証します。「デザイン思考」の手法を取り入れた本校独自の課題研究プログラム「デザインズム(Design-izm)」はこれまで生徒の主体的で分野横断的な学びを育成してきました。

反面、第Ⅱ期までの課題も浮き彫りとなりました。毎日身の回りで生じる事象に対して課題意識が弱く、課題を見つけられないことです。

第Ⅲ期では、1年生の「SS探究基礎」・「Basic Science」では課題に気付く力を育成する授業を展開し、教科学習も探究的な要素をもつ授業を積極的に取り入れる「授業のSS化」に取り組めます。課題研究を更に発展させた新しい出雲高校のSSHにご期待ください。